

## 2 視察団訪日関係

### (1) 米国新聞記者訪日関係

298 昭和4年1月22日

在米国出淵大使より  
田中外務大臣宛(電報)

米国新聞記者訪日招待をカーネギー財団の主催とすることの可否につき照会

ワシントン 1月22日前発  
本省 1月23日前着

第二二号

河上清在京中吉田次官、山本満鉄ヨリ話アリタル趣ノ米国記者団ノ極東観光ニ関シ

(欄外記入1・2)

河上ヨリ「カーネギー」財団「バトラー」、「ジョンウエル」博士ニ内話シタル処先方ハ満鉄等ノ招待トスルコトハ面白カラサルヘク一方同財団ニテ之ヲ企ツル形式トスルコト差支ナキニ依リ同財団主催シ日本鉄道省及満鉄等之ニ援助ヲ与ヘル形式ヲ採ル方可ナルヘク人数ニ付テハ客年同財団実行ノ欧州観光団ノ例ニ徴シ四、五十人ハ余リニ多人数

本省 1月28日後発

第四三号

貴電第二二号ニ関シ

山本社長モ大体「バトラー」氏申出ノ形式ニテ話ヲ進メラレ度ク一行歓待ノ為メ汽車「パス」ハ勿論種々優遇ノ途ヲ講スヘク費用ハ不取敢満鉄ニ於テ三万円位マテハ引受クヘキ趣尚不足ノ場合ハ当方ニ於テモ多少ノ支出ハ差支無キニ依リ大体右御含ミノ上人数等決定セシメラレ度ク時期ハ可成四月頃トセラレタシ

300 昭和4年2月27日

在米国出淵大使より  
田中外務大臣宛(電報)

新聞記者訪日旅行参加者、日程、経費等に  
ついて

付記

昭和四年三月一〇日付在米国出淵大使より田中外務大臣宛機密公第一八七号  
新聞記者受入れにあたっての要望事項並びに留意点

ワシントン 2月27日後発  
本省 2月28日前着

ニテ其ノ効果モ如何ト存セラルルニ付十五人位トシ経費ハ一人分二千弗位ニテ可ナルヘキニ依リ其ノ十分ノ一位ハ「カーネギー」ニテ負担可能ナルヘシ時期ハ準備ノ関係上今秋ノ方都合好キモ日本側ニテ希望ナルニ於テハ今春ニテモ差支ナカルヘシト述ヘ居タル趣ニテ河上ヨリ右ノ趣旨ニテ話ヲ進メ然ルヘキヤ伺出ノ次第アリタルニ付貴方ニテ満鉄社長トモ打合ノ上何分ノ儀御回電アリタシ

(欄外記入1)

情報部長ニ本件ニ付御相談致度

(欄外記入2)

次官ヨリ満鉄社長ニ交渉ノ結果主義ニ於テ賛成 可成三万円位ニテ上ケタシトノコトナリシ由 (斎藤情報部長サイン)

299 昭和4年1月28日

田中外務大臣より  
在米国出淵大使宛(電報)

カーネギー財団主催の新聞記者訪日旅行に  
対する満鉄の後援について

第六九号

貴電第四三号ニ関シ

河上ニ於テ其ノ後再度紐育ニ赴キ屢々「バトラー」ト接触ノ結果左ノ通ノ打合ヲ遂ケ「バ」ヨリ「カーネギー」財団ニ於テ鉄道省、朝鮮鉄道、満鉄、郵船等ノ協力ノ下ニ本件計画ヲ発起セル趣旨ヲ以テ Associated Press, Atlanta Constitution, Baltimore Sun, Boston Transcript, Chicago Daily News, Cincinnati Times-Star, Detroit News, Houston Post, New York Herald-Tribune, New York Times, Omaha World-Herald, Portland Oregonian, St. Louis Post Dispatch, St. Paul Pioneer Press, United Press and Scripps Howard ニ既ニ招待状ヲ発送シ各社ヨリ代表の人物ヲ参加セシメラレ度キ旨申入タルカ其ノ内ニハ無参加ノモノモ有ルヘク其ノ際ハ之ヲ他社ヨリ補充シ度キ「バ」ノ考ナリ(本使モ先週紐育出張ノ際「バ」ニ面会シタル処「バ」ノ方ヨリ本件話ヲ持出シ気乗リシ居ル模様ヲ示セリ)

(2) 四月二十四日桑港出發大洋丸ニテ渡日シ三週間滞在ノ上朝鮮ヲ経テ満州各地ヲ巡歴シ京奉線ニテ北京ニ至リ若

シ状況許セハ陸路南京ニ赴キタル上海ニ出テ同地ヨリ  
大連汽船便ニテ青島ニ赴キタル後大阪商船便ニテ神戸ニ  
上陸シ八月一日横浜出發「サイベリア」丸ニテ帰米ノ筈  
二、一行ハ記者団ニ「カーネギー」財団書記ヲ加ヘ十六名  
ニシテ米国内汽車賃支那内地ノ旅費ヲ一人当リ八百弗ト  
シ金額一万二千八百弗ヲ同財団ニ支払フ事(從テ日滿鮮  
ノ汽車賃「ホテル」代及汽船賃ハ当該各關係者ニ於テ之  
ヲ全部負担スル立前トス)

右ノ次第ナルヲ以テ滿鉄ハ勿論鉄道当局、郵船、商船、大  
連汽船ニ了解取付置カレ度又前記一万二千八百弗ノ額ハ滿  
鉄ヲ發送人トシテ紐育正金宛ニテ電送アリタシ尚本件ハ外  
部ニ対シ「カーネギー」ノ計画ト為ス事前述ノ通ナルヲ以  
テ此ノ点特ニ御含置相成度シ又右ハ「バ」ニ於テ人選決定  
ノ上紐育ニ於テ発表スル手筈トナリ居ルニ付ソレ迄ハ貴地  
ニ於テ本件外間ニ漏レサル様致度シ

(付記)

機密公第一八七号

(4月6日接受)

昭和四年三月十日

コト有益ナルニ依リ例ヘハ三井、三菱等ニ於テ茶会等ヲ  
催サシムルヲ得ハ好都合カト存ス又本邦新聞社等ノ記者  
団ニ対スル歓待モ成ルヘク個々別々トナラサル方可然ト  
存ス  
二、記者団ヲシテ直接且端的ニ日米兩國間ノ懸案等ニ関ス  
ル我方宣伝ニ利用セントスルハ結果反ツテ面白カラサル  
ヘク寧ろ彼等ニ対シ一般の対日好印象ヲ与ヘ永キニ亘リ  
我味方トスルニ努ムルコト然ルヘシ  
三、別紙旅行日程、旅費見積等ハ在紐育「ツーリスト・ピ  
ューロー」等ノ材料ニ依リ河上ニ於テ作製セルモノナル  
モ細目ニ付テハ変更按配ヲ要スル点アルヤモ知レス其ノ  
辺貴方ニ於テモ御研究置相成度

301 昭和4年4月(9)日

在米出淵大使より  
田中外務大臣宛(電報)

カーネギー財団において訪日新聞記者団参加者  
の決定

ワシントン 省 4月9日前着 発

在米 特命全權大使 出淵 勝次(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

米國新聞記者団ノ極東旅行ニ関スル件

本件ニ関シ曩ニ往電第六九号ヲ以テ申進置キタル通ナル処  
右ニ関スル二月二十四日付「バトラ」博士宛河上書翰ニ  
通並ニ旅行日程表、経費見積表各写別紙<sup>省略</sup>甲号及新聞通信社  
宛「バトラ」博士招待状三通写別紙<sup>省略</sup>乙号茲ニ送付ス尚右  
記者団ニ対スル我方ノ接待方ニ付本使氣付ノ点御参考迄ニ  
左記申進ス

一、今次記者団ハ米國各地方ノ代表的新聞通信社ヨリ精選  
組織セラレタルモノナルヲ以テ我方トシテハ先ツ此ノ機  
会ニ彼等ヲシテ充分東洋ノ実況ヲ視察研究セシムルニ重  
キヲ置クヘキハ申ス迄モ無ク從テ彼等ニ対シ徒ラニ各各  
面ヨリノ饗応攻ヲ為シ時間ノ浪費ニ陥ラシムルコトハ新  
聞通信員ノ職業柄ヨリスルモ面白カラサルニ依リ宴会等  
ハ成ルヘク短時間トシ殊ニ通訳付ノ長演説等ハ差控ヘ出  
來得ル限りノ時間ト便宜トヲ与ヘテ我方ノ經濟的文化的  
發達ヲ見聞セシムルコト可然又日本ノ家庭ヲモ紹介スル

第一一〇号

往電第六九号末段ニ関シ

本計画ハ四月九日「バトラ」博士ヨリ紐育ニ於テ発表ノ  
筈顔触等詳細ハ連合、毎日、朝日等ニ於テ電報ノ筈ナレハ  
右ニテ承知アリタキ処右ハ当國各地方ノ有力ナル新聞紙ノ  
幹部ニシテ孰レモ有力ナル記者ナリトノ事ナリ人数ハ十二  
名(内「カーネギー」書記一名)ニテ当初計画ヨリ四名減  
少セル趣ナリ尚「バトラ」ハ四月六日財団実行委員会ニ  
テ本計画ノ事後承諾ヲ求メ満場一致ノ承認ヲ得タルノミナ  
ラス委員中ニハ日本側ノ協力ニ関シ日本実業家ノ先見ノ明  
ヲ賞讃セルモノアリタル由ナリ

302 昭和4年4月15日

在ニュー・ヨーク内山総領事代理より  
田中外務大臣宛

訪日団参加の新聞記者はカーネギー財団に  
対し何ら義務を負わずとの新聞報道

普通第一六六号

(5月6日接受)

昭和四年四月十五日

在紐育

総領事代理 領事 内山 清（印）  
外務大臣男爵 田中 義一殿

米人記者団ノ極東旅行計画ニ関スル新聞記事  
送付ノ件

今回米国記者団ノ極東旅行ニ関シテハ当地方新聞ハ「カーネギー」財団「バトラー」博士ノ発表スル所トシテ別添切（省略）抜ノ通報道シ居レルカ本件ニ関シテハ各紙ハ単ニ同団員ノ氏名及旅程ヲ揚ケテ其旅行カ国際平和促進ヲ目的トスル「カーネギー」財団ノ主催ニ依リ本邦各汽船会社、鉄道省及満鉄等ノ協力ヲ得テ挙行セラルルヲ報シ本月十四日ノ「ヘラルド・トリビューン」紙ハ又団員ハ如何ナル点ニ於テモ「カーネギー」財団及接待者側ニ対シ何等ノ義務又ハ束縛ヲ負フコトナク同財団及本邦協力団体側唯一ノ希望ハ各団員カ此ノ機会ヲ利用シ東洋ニ於ケル現状ニ関シ更ニ有意義ナル諸点ヲ視察研究セラレントノミナリト報セリ  
右御参考迄ニ報告申進ス

303 昭和4年5月27日 田中外務大臣より  
在米国出淵大使宛（電報）

昭和四年五月二十七日

外務大臣男爵 田中 義一

在外公館長殿

米国新聞記者極東観光団ニ便宜供与方ノ件

目下米朝中ノ米国「カーネギー」財団主催同国代表新聞記者極東観光団一行十二名（別添乙号人名表参照）（省略）ハ内地各方面視察ノ後朝鮮、満州及支那各地並台湾視察觀光ノ為メ元総領事加来美知雄同道大体別添丙号旅程表ニ依リ貴地方歴訪ノ筈ナル処一行ハ何レモ米国ニ於ケル相当有力ナル新聞記者ニ有之此機会ニ二分ニ視察ノ目的ヲ達セシメ以テ日支両国ノ実状ヲ了得セシムルコト可然ト思料セラル尚之レカ為メニハ一行ヲシテ可成形式的儀礼ト御馳走攻ヨリ免レシメ出来得ル丈ケ時間ノ余裕ト視察上ノ自由及機会ヲ与フルコト必要ナルヘク申ス迄モ無之儀ナレトモ一行貴地ニ於ケル「プログラム」御作成ノ際各方面トノ御交渉ノ關係モアルヘキニ付為念申添度就テハ一行貴地往訪ノ際ハ（在滿各地公館宛分）満鉄側ト御打合セノ上視察上便宜供与方可然御取計相成度シ

（北京、天津、濟南等在滿州各公館以外ノ分）予メ視察日

米国訪日新聞記者団の滞在日程

本省 5月27日後発

第一九一号

米国記者団ハ十日入京以來操觚界、政治、実業、学界等各方面ノ熱心ナル大歓迎ヲ受ケ其間京浜地方復興事業、大学、新聞社、同愛病院、職業紹介所、生糸検査所、蚕業試験所、工場、大商店、野球、陸上競技、相撲、芝居、庭園等各方面ニ涉リ随意參觀シ日光遊覽ノ上二十二日退京箱根、名古屋、伊勢、関西ヲ経テ六月九日渡鮮十四日乃至二十五日満州滞在其後北平、山東、上海、南京ヲ経テ七月十六日長崎着更ニ台湾ニ行キ二十七日帰京八月二日発歸米ノ予定一行元氣善ク愉快ナル旅行ヲ続ケ居レリ  
在米各総領事並領事へ可然転報アリ度

304 昭和4年5月27日 田中外務大臣より  
在中国公使、在上海総領事他一二公館長宛

訪日新聞記者の中国、満州旅行に対する便宜

供与方依頼

情ニ機密合第五八七号

程作成置相成ルト共ニ支那語ニ堪能ナル案内者ヲ同伴セシメラルル様御取計相成度シ

追而本件計画ハ名義上「カーネギー」財団カ満鉄其他ノ協力ニ依リ主催シタル体裁ナルモ事実上ハ満鉄其他民間諸会社ヨリ経費全部ヲ出シ我方ニテ招待シタルモノナリ尤モ此点ハ外部ニ発表セサルコトナリ居レリ（別添甲号参照）（省略）  
本信宛先 在中国公使、在上海、天津、濟南、青島、哈爾濱、奉天、吉林各総領事、在南京、安東、鉄嶺、遼陽、長春、齊齊哈爾各領事

305 昭和4年6月4日 田中外務大臣より  
在中国堀臨時代理公使宛（電報）

新聞記者団に対する便宜供与に際して注意喚起

本省 6月4日後発

第一七八号

表面カーネギー平和財団主催ノ下ニ内実満鉄ソノ他ノ向ニテ招待セル米国記者団一行十二名本邦視察ヲ終リタル上滿鮮經由貴地方面ニ向フコトト相成居ル処国民政府ニ於テハ一行ノ友邦訪問ヲ宣伝ニ利用セン魂胆ヲ有スルモノノ如ク

特ニ外交部員ヲ一行ニ専属セシメ各種優遇ノ途ヲ講セントシツツアル趣我方トシテハ何等之ニ對抗スルノ措置ヲ採ルハ大人気ナキ故機密合第五八七号往信ノ趣旨ヲ多少變更シ満鉄囑託「キニー」氏ヲ一行ニ随使セシムル外全ク成行ニ任スコトト致度ニ付キ右ニ御含之アリ度尤モ貴官ニ於テ適當ノ機会ナリ便アラハ一行トノ接触及ソノ啓発ニ留意セラレ度ク何レノ途一行ノ動靜支那側ノ遣口等ニツキテハ特ニ注意アリ度シ尚ホ本件關係ニ於テ出費ヲ要スル場合モアラハ相当ノ支出差支ナキモ本件ハ表面飽ク迄テモ本省ニ於テ何等關係ナキコトトナリ居ル次第ニ付キノ御含ミニテ取扱ハレ度シ

本大臣訓令トシテ天津、青島、濟南、上海、南京へ転電シ参考トシテ奉天へ転電アリタシ

306 昭和4年6月13日

在ロス・アンジェルス高岡(禎一郎)領事代理より  
田中外務大臣宛

訪日参加新聞記者による日本評について

公第一七六号

(7月9日接受)

昭和四年六月十三日

云々

(第二信)「ペルリー」提督カ日本ヲ開国シテカラ益々々々展シ行キ人口ノ激増モ亦大テアルカ年々八十万ノ増加トハ誇張ノシタ見解テアラウ其ノ人口解決策モ支那、滿州其他東洋ノ状態テハ容易ナコトテハアルマイ又同船中ノ教養アル日本人カ人口統計上ヨリ見テ種々ト白人ノ横暴等ヲ述ヘタカコレハ実ニ不愉快タ自分ハ日本ノ人口解決ニハ産児制限ノ強制ニアルト信スル折シモ三名ノ宣教師カ支那テ殺害サレタコトヲ無電テ知ツタ自分等モコンナ統計学者ノ論ヲ聞クナライツソ支那テ生命ノ危険ヲ冒シタ方カヨイ様ニ感シタ

丁度日本ノ天長節祝賀会カ船中ニ開カレタカ之ニハ吾々々々國人ハ關係カナイト云フノテ出席シナカツタ

(第三信)日本人ハ其国ヲ愛スルコト他ノ外国人ニ譲ラス太陽ノ子孫ト自信シ東洋一ノ国民ト自尊シテ居ル自分ハコレニ対シ賞讃ノ辞ヲ惜ムモノテハナイカ我西歐文明ノ威力ハ之ヲ内ニ藏テ置クヘキテ外ニ出テハ世界平和ノ擾ス惧アルト思ツタ

支那人ハ現在ノ処テハ惧ルヘキモノテモナイカ日本カ之ヲ

在ロスアンゼルス

領事代理 副領事 高岡 禎一郎(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

「カーネギー」平和財団派遣「ロスアンゼルス」

タイムズ」記者ノ日本評ニ関スル件

「カーネギー」平和財団ヨリ東洋方面視察ノ為派遣セラレタル米國新聞記者中ニハ「ロスアンゼルス・タイムズ」記者「フレッド・ホーグ」氏ニ加ハリ居レルカ船中ヨリノ通信不取敢高和書記生ヲシテ摘訳セシメ右新聞記事切抜添付<sup>(省略)</sup>ノ上為御参考報告ス御査閲相成度シ

記

(第一信)大洋丸船中ニ於テ教養アル日本人ニ接シ之ト語ル中ニ其ノ礼讓ノ下ニハ難冒毅然タルモノカアル彼等ノ「無言」ハ「承諾」ノ意ニアラスシテ「不同意」ナルコトヲ知ツタ日本人ハ「アングロサクソン」ノ文化ヲ学ヒ之ヲ産業軍事ニ応用シテ居ル其体軀小ナルニ拘ハラズ知識ニ豊富テアル

日本人ハ現在ノ処真面目ニ平和ヲ冀望シテ居ル然シ之カ永久的テアルカ又ハ一時的ノモノテアルカハヨク解ラナイ  
左右スル様ニナルト欧米一致シテ之ニ当ラナケレハナラナイト感シタ

東洋ニ近ツクニ從テ自分ハ今迄ノ想像カ變ツテ来タ日本人ノ子供ハ西洋人ノ子ニ比シヨク作法等ヲ心得テ居ル様ニ思ツテ居タカ大洋丸乗船ノ日本人子供五十名ハ躰カ悪ク食堂テモ其ノ他ノ場所テモ暴レ廻リ一般ノ乗客ノ邪魔ヲシタ隔夜活動写真カアルカ其時子供等ハ自分ノ席ニ落ツカナイテ諸所ヲ走り歩キ誰モ之ヲ制止スルモノカナイ聞ク処ニ依レハ彼等ハ寺院ノ儀式ノ時テモ同様テアルト云フコトテアル自分ハモウコノ子供ニハ閉口シタ云々

307 昭和4年6月14日

在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

米國新聞記者団に対する中国外交部の積極的  
対応振りについて

北平 6月14日後発  
本省 6月14日後着

第六二四号

貴電第一七八号ニ関シ

米国記者団歓迎方ニ関シ当地満鉄公所トモ折角打合中ナリシ処右歡迎方ニ関シテハ米国公使館ニ於テモ当地外交部檔案処ト連絡ノ上諸方面ノ視察計画ヲ立テ居ル模様ナル一方南京ヨリハ特ニ外交部員鄺ヲ安東ニ出張セシメ同地ヨリ同記者団ノ案内ニ当ラシメツツアル外当方面ノ視察ニ関シテハ支那側ニ於テ主トシテ「プログラム」ヲ作成スル様既ニ南京政府外交部ヨリ訓令アリタル模様ナルニ付テハ此ノ上当方ヨリ立入りテ何等世話スル余地モナカルヘキヲ以テ特ニ米国公使館又ハ外交部檔案処等ヨリ申出ナキ限り我方トシテハ別段ノ措置ヲ執ラサル心算ニ付右ニ御含置相成度シ天津、青島、濟南、上海、南京、奉天へ電報セリ



ハ兎モ角トシ支那へノ旅行ハ不可能ナリトノ理由ニテ折角ノ右計画モ一時見合トナリ居リタルモノナリ

然ルニ其後加奈陀ノ対東洋貿易ハ年々増加ヲ示シ殊ニ本邦トノ貿易額カ毎半期ニ躍進的發展ヲ続ケ居ルノ事実ハ甚シク加奈陀人士ノ東洋ニ対スル興味ヲ刺戟シ是等人士ヲシテ其対東洋貿易ノ将来ニ対シ益々以テ大ナル期待ヲ抱カシムルニ至リタルカ此事態ニ処シ晚香坡商業會議所ハ機會アル毎ニ政府筋及關係団体側ニ対シ右視察団派遣ノ喫緊事タルコトヲ勸説シ右ニ対スル領商務大臣及東部加奈陀実業家ノ賛同ヲ得ルニ努メツツアリタルカ先般「エドモントン」及「カルガリー」両市（共ニ管下「アルバータ」州ニ在リ）ニ於テ開催セラレタル全加奈陀商業會議所連合會（Canadian Chamber of Commerce）會議ノ席上右視察団明一九三〇年中ニ派遣ノ件付議セラレタルトコロ同會議ハ満場一致ヲ以テ之ヲ可決シ之カ為先ツ準備委員會ヲ設置スヘキコトヲ決議シ茲ニ本計画ハ晚香坡商業會議所ヨリ全加奈陀商業會議所連合會ノ手ニ移リ全国的色彩ヲ帶フルニ至レリ

更ニ今般領首相晚香坡訪問（本月二十二日付拙信機密公第

(2) 加実業家訪日関係

308 昭和4年11月22日 在ヴァンクーヴァー福岡領事より  
幣原外務大臣宛

カナダ実業団による極東視察計画について

公第二七六号 (12月7日接受)

昭和四年十一月二十二日

在晚香坡

領事 福岡 豊吉（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

加奈陀商業會議所ノ東洋実業視察団派遣計画ニ

関スル件

晚香坡商業會議所ニ於テハ加奈陀ノ対東洋貿易ノ将来ニ鑑ミ夙ニ本邦及支那ニ対シ実業視察団派遣ノ必要ヲ認め一九一八年以来再三右視察団組織ノ計画ヲ立テタルモ其都度種々ナル障碍ノ為其実現ヲ見ルニ至ラス就中一九二七年春ニ於テハ本省及本邦商業會議所連合會等ノ斡旋ニ依リ右視察団ノ組織其他大体「プログラム」等ノ決定ヲ見タルモノナルニ不拘其後ニ至リ生憎支那動亂突発ノ為日本迄ノ旅行

二七八号参照）ニ際シ当地商業會議所ハ他ノ地方的問題ト共ニ本件ニ関スル叙上ノ経緯ヲ述ヘテ本件ニ対スル首相ノ注意ヲ喚起シ首相ニ於テ其ノ公ノ資格ヲ以テ本計画ニ賛意ヲ表シ併セテ政府ニ於テモ本邦実行方ニ付協力ヲ望ムモノナル旨ヲ公然声明セラレンコトヲ要望ストノ決議（全文<sup>（省略）</sup>別紙ノ通り）ヲ首相ニ提出シ右決議中南隣米國ニ於テハ絶ヘス日本及支那ニ向ツテ此種団員ヲ派遣シツツアルニ際シ加奈陀ニ於テハ今日ニ至ルモ尚未タ一回モ此舉ニ出タルコトナキヲ指摘シ且又本計画ニ対シテハ曩ニ領商務大臣ヨリ便宜供与方ヲ約セラレタルモノナルコトヲ付言セリ尚前記商業會議所連合會ノ視察団準備委員會ハ委員長H. R. MacMillan氏以下「モントリオール」、「トロント」、「ハリファックス」、「シャーロット・タウン」、「カルガリー」及「ウィニペッグ」ノ諸都市ヨリノ委員ヨリ成ルモノナルカ同委員長「マクミラン」氏ハ嘗テ加奈陀商務官タリシ閱歴ヲ有シ当地ニ於ケル有力木材輸出商ニシテ対日貿易ニ関係深ク先年復興局ニ対シ加奈陀材ヲ売込ミタルコトアル人物ナリ而シテ本件視察団ハ明年十月三十日当港出帆ノ「エムプレス・オブ・ジャパン」号ニテ出発ノ予定ナリト言フ